

テーマ：2012年7-9月期GDP（2次速報値）の予測
 ～ 前期比年率▲3.9%への小幅下方修正を予想 ～

発表日：2012年12月3日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528

12月10日に内閣府から公表される2012年7-9月期実質GDP（2次速報）は前期比年率▲3.9%（前期比▲1.0%）と、1次速報段階の前期比年率▲3.5%（前期比▲0.9%）から小幅下方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計の結果を受けて、設備投資の下方修正が見込まれることがその理由である。復興需要により公的需要が増加した一方、①海外経済の減速に伴う輸出の減少、②自動車販売の減少等を背景とした個人消費の悪化、③先行き不透明感の強まりによる設備投資の手控え等を背景に民需がそれ以上に落ち込んだことで、今夏の景気が大幅に悪化していたことが改めて確認されるだろう。

2012年7-9月期GDP2次速報値予測

1次速報実績

	(%)		(%)
実質GDP	▲ 1.0		▲ 0.9
(前期比年率)	▲ 3.9		▲ 3.5
民間最終消費支出	▲ 0.5		▲ 0.5
民間住宅	0.9		0.9
民間企業設備	▲ 3.7		▲ 3.2
民間在庫品増加(寄与度)	0.2		0.2
政府最終消費支出	0.3		0.3
公的固定資本形成	3.5		4.0
財貨・サービスの輸出	▲ 5.0		▲ 5.0
財貨・サービスの輸入	▲ 0.3		▲ 0.3
名目GDP	▲ 1.0		▲ 0.9
(前期比年率)	▲ 4.0		▲ 3.6

※断りの無い場合、前期比(%)
 (出所)内閣府「国民経済計算」

設備投資は下方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計では設備投資（名目）が季節調整済み前期比▲2.5%となった。QE推計において実施されている法季のサンプル要因を除去するための断層調整を行うと、減少幅はさらに拡大する。加えて、GDP 1次速報段階で反映されていなかった9月分の生産動態統計などの結果も弱く、GDP 2次速報では設備投資は前期比▲3.7%と、1次速報段階の同▲3.2%から下方修正されると予想する。景気の先行き不透明感の高まりから、企業が設備投資の手控え・先送り傾向を強めていることが示されるだろう。

公共投資についても、1次速報段階で未公表だった9月分の建設総合統計の結果を反映して前期比+3.5%と、1次速報段階の同+4.0%から小幅下方修正される見込みだ。在庫投資については、法人企業統計の仕掛品在庫、原材料在庫が1次速報の仮置き値より下振れた一方、流通在庫が上方修正されるとみられ、在庫投資の前期比寄与度は+0.2%Ptと、1次速報から変化がないと予想する。

なお、今回の2次速報値公表に際しては、2011年度の確報（および2010年度確々報）の結果が反映されることに注意が必要である。過去においても、確報で計数が大きく修正されることがあるため、攪乱要因になる可能性がある。また、季節調整に際して用いるモデルが公表されていないことも予想を難しくしている。このように、今回の改定においては多くの不確定要素が存在するため、予測値は十分幅をもってみる必要がある。